

主な国際会議開催

1 日・尼 第3回研究連携ワークショップ(インドネシア:2011年1月25日～27日)

このワークショップは、2009年11月に締結した当所とインドネシア公共事業省道路・橋梁研究所 (Research and Development Center for Road and Bridge (RDCRB)) との研究協力に関する覚書に基づき、インドネシア国ジャカルタ市で開催した。本会合では、第2回ワークショップにおいて、特定した6つのプロジェクトのロードマップの最終調整のための会議を行い、①画像処理技術を用いた交通（量及び軌跡）観測手法②2輪車及び4輪車交通における道路環境（CO2排出、騒音、景観等）の影響評価について（仮）③道路交通のマナーに関する研究など合意された。また、インドネシア公共事業省大臣、副大臣、道路総局長への表敬訪問における意見及び情報交換を行った。

2 日・越 第2回中堅・若手ワークショップ(ベトナム:2011年2月15日～17日)

このワークショップは、2010年5月に来所されたデュック交通省副大臣の訪問を契機に締結した当所と交通省科学技術研究所 (Institute of Transport Science and Technology (ITST)) との研究協力に関する覚書に基づき、ベトナム国ハノイ市で開催された。本会合では、第1回ワークショップでの発表と討議を踏まえ、今後の研究連携のコア部分を形成する「4つの新設研究室（道路、道路環境、ITS、港湾）と関連技術連携を柱とする技術協力素案」についての討議、並びにベトナム側の課題と研究実施体制等に関する把握と第1回ワークショップのフォローアップ等を行い、次年度以降の技術協力案についての技術的な内容の調整と関係機関への調整スケジュール確定等、最終案の作成に向けた共同作業を行った。

3 日・印 第2回地すべり等防災ワークショップ(インド:2011年3月8日～10日)

このワークショップは、2010年1月に締結した当所とインド内務省国立災害研究所 (National Institute of Disaster Management of India (NIDIM)) との研究協力に関する覚書及び地すべり・災害管理研究が位置付けられた「日・インド両国首脳による安全保障協力に関する共同宣言の行動計画」（2009年）に基づき、インド国シッキム州ガントク市で開催された。今回の会合は、日本側から7名が参加し、インド側からは、シッキム州歳入・災害管理省大臣他30名が参加し、①地すべり災害の現状、②気候変動に伴う地すべりと関係災害、③地すべりの実際の対策などのテーマについて発表と討議を行い、また、重要路線NH31Aの地すべり災害地、及びManjin地区被災地において、現地調査を行った。

4 日・尼 第4回研究連携ワークショップ(インドネシア:2011年5月31日～6月2日)

このワークショップは、2011年1月に開催した第3回ワークショップで残された研究連携プロジェクト「現地の天然材料ASBUTONを用いた舗装スペックの共同開発」について、ロードマップの合意に向けた最終調整を行うとともに、現地にて材料の確認と特性試験等実施に関する調整、関連する舗装と材料に関するプレゼンテーションを行った。また、現地会合では、スラウェシ州地域局長等をはじめ、北ブトン地方政府及びワカトビ地方政府関係者との意見交換を実施した。今回の会合では、アズブトン (ASBUTON) を用いた舗装スペックの共同開発、並びに道路交通安全に関する研究連携プロジェクトのロードマップの確定を行った。

5 日・越 MINI WORK SHOP in Japan(日本:2011年6月6日～9日)

このワークショップは、当所とベトナム交通省科学技術研究所(Institute of Transport Science and Technology(ITST))が、2011年2月に合意した研究連携ロードマップに基づき開催されたもので、(独)土木研究所も参画して行われた。ITST代表団(6名)らは、ポーラス舗装、橋梁の防水舗装などの発表や議論などを行い、ワークショップの後につくば、横須賀及び(独)港湾空港技術研究所から基礎的な政策や実験機器等の説明を受け、また静岡県的高速道路建設現場視察が実施された。また、ノイバイ国際空港と首都ハノイを結ぶ最重要構造物の1つであるタンロン橋の補修の性能設計と施工技術に関して、技術政策面での支援に関する申し入れがあり、一連の研究連携の1つとして進めていく旨快諾した。

6 日・越 第3回中堅・若手ワークショップ(ベトナム:2011年6月29日～7月1日)

このワークショップは、2011年2月の第2回ワークショップを経て合意された「研究連携ロードマップ」に従い、ベトナム国ハノイ市で開催された。連携ロードマップの内、ポーラス舗装、橋梁の防水舗装に関しては、つくばでのStudy Tour in Japanを踏まえて、今後のベトナムでの現地適応のスペック作成に関する共同作業工程の議論を行うとともに、第2回ワークショップにおいて行ったハイヴァントンネル調査に関しては、当該報告書の概要発表、関連する道路環境の調査プログラムの具体の調整を行った。また、別途共同研究テーマとして紹介した暴露試験については、今後の具体的な連携内容に関する文書合意に向けた議論等を行った。

7 日・尼 研究連携テクニカル・スタディ(日本:2011年9月26日～30日)

当所とインドネシア公共事業省道路・橋梁研究所(Research and Development Center for Road and Bridge(RDCRB))とが締結した両研究所の研究協力に関する覚書に基づき、これまで4回にわたりワークショップを開催している。今回の研究連携テクニカル・スタディは、RDCRBにおける橋梁や構造物の実験施設の近代化のための視察調査として企画実施され、(独)土木研究所、(独)建築研究所、(独)港湾空港技術研究所、(独)防災科学技術研究所の実大三次元振動破壊実験施設(E-ディフェンス)などの研究施設及び、道路管理及び橋梁構造物(明石海峡大橋、港大橋)の視察調査を実施した。

8 日・尼 第5回研究連携ワークショップ(第2回アジア太平洋国際シンポジウム)

(日本:2011年10月25日～26日)

インドネシア北西ヌサ州マタラム市において、「第5回研究連携ワークショップ(第2回アジア太平洋国際シンポジウム)」を開催した。当所は、2009年11月にインドネシア公共事業省道路・橋梁研究所(RDCRB)との研究連携に関する覚書の締結に基づき、これまで4回のワークショップ及び1回の国際会議を開催し、今回一連の研究連携ワークショップに続く形で開催した。本ワークショップでは、道路及び交通問題に関心のある研究者や職員の間で情報及び知見が共有されたもので、RDCRB研究者をはじめバンドン工科大学や北西ヌサ州副知事等、地方政府関係者を含め約150名が参加した。

1～8企画部 国際研究推進室長 寺元 博昭

9 第27回日米橋梁ワークショップ 第15回MLIT/FHWA政府間会議（日本：2011年11月7日～9日）

日米橋梁ワークショップは、天然資源の開発利用に関する日米会議(UJNR)の耐風・耐震構造専門部会の下に設けられた作業部会G(交通システム)の活動として、日米交互開催で毎年行われている。今回は、つくばで開催され、東北地方太平洋沖地震、津波、耐震補強、耐荷力評価、維持管理・点検等に関する論文発表(日本側17編、米国側13編)、討議及び意見交換等を行った。MLIT/FHWA政府間会議は、日米科学技術協力協定の協力テーマ「橋梁等構造物」に関連する米国連邦道路庁との会議であり、今回は、橋の維持管理における点検データの活用方法、2010年2月に発生したチリ地震の経験を踏まえた継続時間の長い地震動の影響、2011年3月に発生した東北地方太平洋沖地震等を踏まえた津波による橋への影響に関する意見交換を行い、今後も継続的な情報交換を行うことを確認した。

道路研究部 道路構造物管理研究室長 玉越 隆史、主任研究官 中洲 啓太、研究官 野村 文彦

10 第18回ITS世界会議、二国間会議（米国：2011年10月16日～20日）

ITS研究室では、国土交通省道路局とともに、国際協調しつつITSを推進するために、オランダ(米国)で開催された第18回ITS世界会議に参加し、論文発表(6編)に加え、特別セッションでの登壇・プレゼンテーション(4セッション)を行うとともに、世界会議に合わせて開催された国際サイドイベントでの発表(2ワークショップ)を行った。また、二国間会議(米国、欧州委員会、中国、韓国)においてITS関係部局との情報・意見交換、今後の共同研究等に関する議論を行うとともに、欧米間の協調システムに関する調和化活動に参加し、最新情報の収集を行った。

高度情報化研究センター 高度道路交通システム研究室長 金澤文彦、主任研究官 鈴木彰一